

# 経済建設 常任委員会

## 花火大会・ふるさとまつりの現状を調査 安全な花火大会と町をPRできるまつりに



委員長 石内 國雄 委員 渡辺 俊彦  
副委員長 町田 宗宏 浅見 武志  
筑井 あけみ

所管事務調査日：平成29年6月12日



玉村町の夜空を彩る花火大会



旧日光例幣使道を行進



山車とみこしによる「総ぶっこみ」

### ●たまむら花火大会

上陽地区での開催は3年目となり、町制60周年記念大会である今年は、100区画の有料観覧席を設け販売した。  
100区画の内20区画はふるさと納税の返礼品、80区画は一般販売とし、6月2日にはどちらも完売となった。  
毎年の課題である駐車場対策では、新たに群馬産業技術センターに約300台分を確保した。

### ●玉村町ふるさとまつり

町制60周年記念大会となる今年は、昨年に続き「総ぶっこみ」を行う。  
またパレードでは、「祝町制施行60周年記念 みんなでふれあいパレード」として、各種団体の隊列の後ろに「サンバたまむら」の踊りで盛り上げていく。  
「サンバたまむら」は参加者を回覧で募集し、練習会を「ふるさとホール」で実施する。

### まとめ

たまむら花火大会は、多くの方々が観覧するため、特に安全面の対策が必要と考える。開催に当たっては、打ち上げの事故、また交通事故等に対する十分な警備体制を期待する。また有料観覧席の増加の検討や、前橋地域のさらなる協力を望みたい。  
「玉村町ふるさとまつり」は、町全体のまつりとして位置づけられているが、参加する人は一部に限られているため、町内全地域から参加できるように再検討する時期に来ていると感じる。町内各地域で行われている祭りを含め、町全体をPRできる事業の在り方の検討を期待する。



# 総務 常任委員会

## 「小川の庄」の取り組みを調査 地域特性を生かした取り組みを学ぶ

委員長 笠原 則孝 委員 斉藤 嘉和  
副委員長 備前 島久仁子 川端 宏和  
石川 眞男

所管事務調査日：平成29年5月16日



今回はこのメンバーで調査



「小川の庄」の説明を受ける



おやきによる高齢者の生きがいづくり

### ●「小川の庄」設立の背景

長野県小川村は面積の約8割が山林で、人口は約2700人、高齢化率が45%の村である。これに危機感を感じた村の若者が中心となり、地域の活性化を図り、村の労働力や資源を活用した事業を検討し、昭和61年に農協、食品会社、地域住民が協同出資し、「小川の庄」を設立した。

### ●「小川の庄」の取り組みと成果

当初はふるさと田舎事業の指定を受け、その一環として漬物製造の委託事業からスタートした。その後、地域の特性や特産物の活用を必要性を痛感し、高齢者が持つ技術をそのまま生かせる昔からあるおやきの販売を思い立ち、各種販売展示会に出品した結果、好評を受け現在は7億500万円を売り上げる企業に発展した。

### まとめ

過疎化や高齢化が進む中、「小川の庄」は高齢者を雇用した特産品の生産・販売で、多くの観光客を呼び込んでいた。また、高齢者の雇用により、高齢者は働く喜びを感じ、地域で役割を担いながら収入も得ている。  
玉村町は高齢者が持つ経験やスキルを生かす場の確保や整備は十分とはいえない。今後さらに進む高齢化社会に、地域の資源を活用し、誰もがいきがいをもって活躍できるまちづくりを、地域や民間と連携しながら進めていくことを期待する。